

IV-4 地域経済の活性化

地場産小麦のブランド化による地域活性化への取組

石狩管内江別市では、強力粉用で実需の高い幻の小麦と言われている「ハルユタカ」の産地であることを活かし、地元の市民グループ、教育機関、農家、製麺業者、飲食業者、製粉業者などが連携して、江別市ブランド「江別小麦めん」の開発や「麦の里えべつ」キャンペーンの実施など、地域ぐるみで活性化に向けた取組が進められています。

「ハルユタカ」は、湿害に弱いため、暗渠排水の整備が大変重要となります。暗渠排水の整備など農業基盤整備を進めたことにより、「ハルユタカ」が安定的に生産できるようになりました。

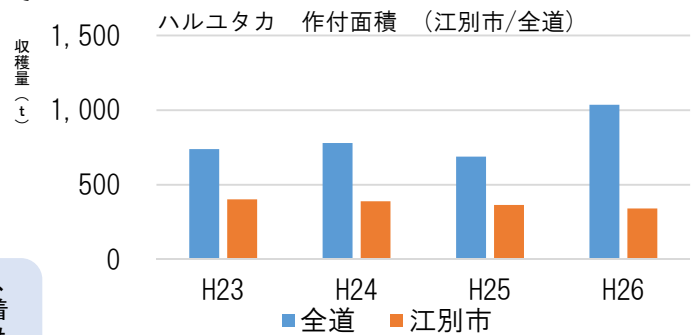
◆小麦産地化の概要

- ・昭和50年代以降水田転作により作付けが拡大
区画整理や排水改良など基盤整備の着実な推進
- ・昭和60年「ハルユタカ」の作付け開始
「ハルユタカ」で初冬まき栽培法が導入
- ・平成10年「江別麦の会」発足
「ハルユタカ」など春まき小麦の生産拡大
- ・平成14年「江別経済ネットワーク」発足
「江別ブランドラーメン部会」活動開始
- ・平成16年「江別小麦めん」販売開始
- ・平成19年「立ち上がる農山漁村～新たな力」認証
- ・平成20年「第47回ジャパンパッケージングコンペティション」で江別小麦めん受賞・「農商工連携88選」に選定

ハルユタカの刈り取り風景



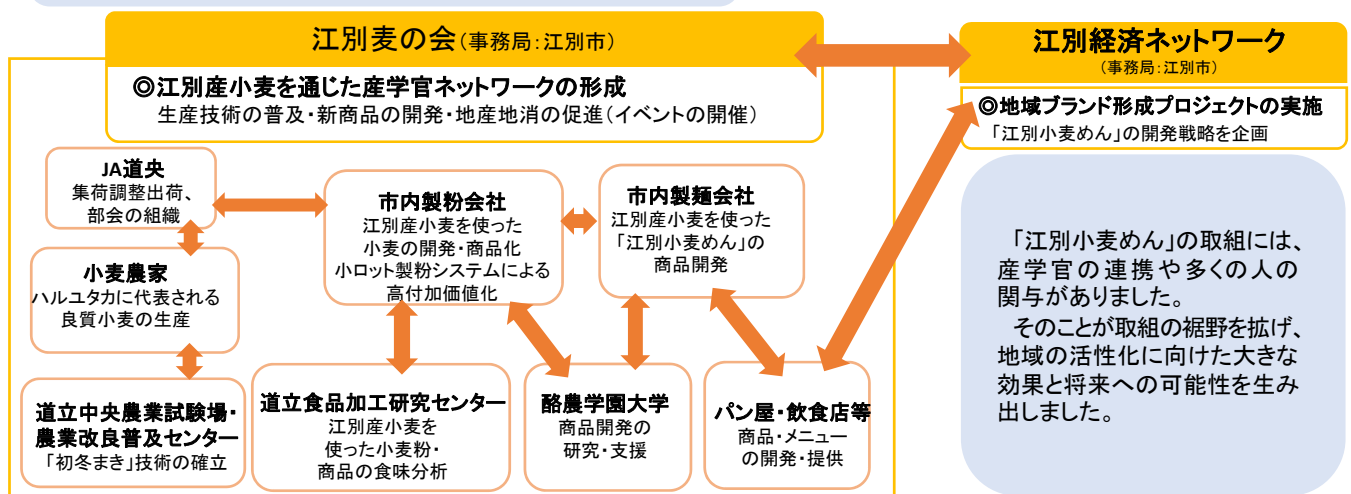
江別市における春まき小麦の収穫量の推移



江別市農業振興課調べ



「江別小麦めん」は、市内飲食業者への提供、市民への直接販売、学食や給食などでの利用などを通して江別市において広く定着しました。現在では、江別産小麦へのこだわりがパンや菓子にも波及しています。



「江別小麦めん」の取組には、産学官の連携や多くの人の関与がありました。そのことが取組の裾野を拡げ、地域の活性化に向けた大きな効果と将来への可能性を生み出しました。

◆取組の効果

- ・江別産小麦のブランド化で価値と需要が高まり地域農業を振興
- ・江別産小麦を利用した新製品の開発・販売による地域経済の活性化
- ・イベントや広報
- ・地産地消の拡大
- ・産学官の連携及び市民の強力にて実施することによる「協働」の推進

「江別小麦めん」の経済効果は、販売開始から3年間で28億円(小麦だけの出荷額の40倍相当)に達しました。